（様式４）

令和7年5月山口市長定例記者会見

記者発表資料

件　名：	周防鋳銭司設置1200年記念事業の開催及び史跡周防鋳銭司跡における新たな銭種「貞観永宝」の発見について
担当課：	教育委員会文化財保護課（電話：083-920-4111）

古代の銭貨鋳造所である周防鋳銭司は、文献史料「類聚三代格（るいじゅさんだいきゃく）（狩野文庫本）」によれば、天長2年（825）に設置されたと記録されており、本年は設置から1200年の節目の年となることから、これを記念して様々な関連イベント等を展開してまいります。

また、令和6年10月に第4次調査（平成30年度）で採取した土の水洗選別（注1）作業で新たな銭種「貞観永宝（じょうがんえいほう）」を発見しました。

1. 周防鋳銭司について

鋳銭司は古代日本の銭貨生産を担った官営の銭貨鋳造機関で、文献史料では、奈良・平安時代にかけて河内国、長門国、山城国、周防国などに設置されたことが確認できます。

周防鋳銭司は、天長2年（825）に長門国から移設され、以降、11世紀初め頃まで国内唯一の鋳銭司として稼働し、「富寿神宝」から「乾元大宝」までの8種類の銭貨を生産したとされています。

昭和40年代の2回の発掘調査により、周防鋳銭司に関係すると考えられる遺構や遺物が確認され、昭和48年（1973）に国史跡に指定されました（指定面積：38,502㎡）。

平成29年度から本市と山口大学と共同で発掘調査を実施しており、実際の銭貨生産を裏付ける「富寿神宝」や工房とみられる大型の建物などが発見され、古代日本の銭貨生産を担った周防鋳銭司の実態が少しずつ明らかになってきています。

写真１　史跡周防鋳銭司跡　赤線内が史跡指定地（上が北）

2. 記念事業の開催について

周防鋳銭司設置1200年記念事業の概要については下記の通りです。

なお、各事業の詳細につきましては、事業実施前に市ホームページ等で改めてお知らせする予定です。

(1)実施期間　令和7年4月から令和7年11月

(2)実施場所　史跡周防鋳銭司跡等

(3)記念事業概要

① 鋳銭司郷土館展示リニューアルオープン

日時:4月19日(土)12 時00分

概要:開館以来初めてとなる展示リニューアルを実施。新たに収集した資料や出土資料を加え、復元イメージ図なども使用して最新の調査成果を紹介する展示となっています。

〇ギャラリートーク:第二展示室(周防鋳銭司と貨幣の歴史)

・6 月 15 日(日) 13 時 30 分～

(山口市教育委員会　北島大輔)

写真２　展示リニューアル後の鋳銭司郷土館　第二展示室

② 山口市歴史民俗資料館企画展＆連携展示（スポット展示）

企画展テーマ：古代の山口

（前期）

期間：7 月 19 日（土）～9 月 28 日（日）

サブタイトル：「古代の先端技術と鉱工業」

（後期）

期間：10 月4日（土）～11 月 24 日（月・祝）

サブタイトル：「周防国と長門国」

概要：市内外の関連遺跡から出土した資料などを紹介する企画展示を行います。

写真３　山口市歴史民俗資料館

○連携展示（スポット展示）

概要：山口市歴史民俗資料館での企画展にあわせてスポット展示を行います。

期間：7月 19 日（土）～11 月 24 日（月・祝）

※館によって展示期間が異なる場合があります。

・「古代」をテーマとしたスポット展示

連携展示館：鋳銭司郷土館、小郡文化資料館、山口大学埋蔵文化財資料館、山口県立山口博物館

・「周防鋳銭司」を紹介するスポット展示

連携展示館：日本銀行貨幣博物館、独立行政法人造幣局 造幣博物館

③ 記念講演会 「みえてきた周防鋳銭司」

日時：9月27日（土）13時 30分～15 時30分

会場：山口南総合センター　ホール

概要：近年の史跡周防鋳銭司跡の発掘調査成果や日本古代史などの研究成果から、周防鋳銭司について理解をより深めていただく講演会を開催します。

基調報告：「周防鋳銭司を描く」（山口市教育委員会　北島大輔）

記念講演：「（仮）鋳銭司時代の陶地域」
（山口大学人文学部　黒羽亮太准教授）

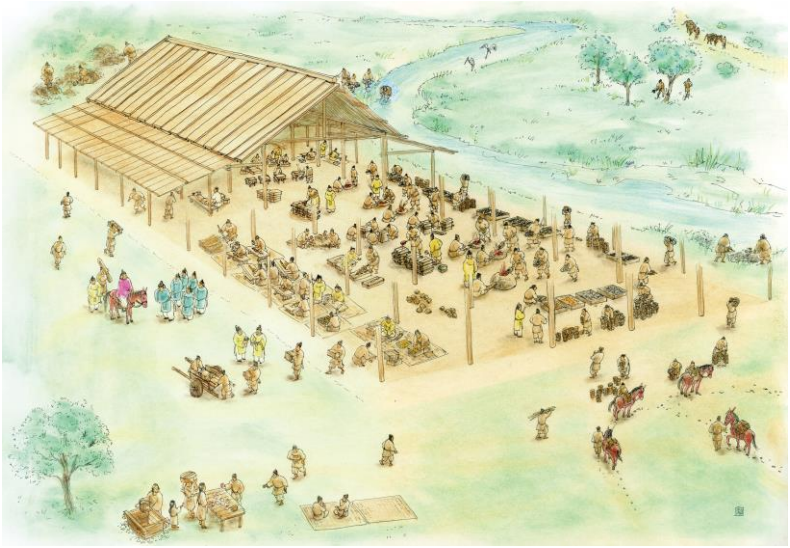


図１　発掘調査で見つかった銭貨生産工房の復元イメージ図

④ （仮称）周防鋳銭司まつり

日時：10月11 日（土）10 時00分～14 時00分

会場：史跡周防鋳銭司跡（山口市鋳銭司字大畠5044ほか）

概要：・ものづくり体験

IHコンロを使用した銭貨の鋳造

木の板に墨で字を書く木簡づくり　他

・史跡周防鋳銭司跡第 10 次発掘調査現地説明会

・一部古代米を使用した餅まき

・「富寿神宝」の草絵と「1200」の人文字のドローン撮影

（鋳銭司自治会主体）

写真４　銭貨鋳造体験の様子

参考：草絵と人文字の完成イメージ
（鋳銭司自治会提供）

⑤ 銭貨の鋳造体験

日時：①11月9日（日）　鋳銭司ふるさとまつり

②11 月16日（日）　陶ふれあいまつり

概要：当時の鋳造技術を再現した手鞴（てふいご）の体験を行うほか、ブロアーを使用した鋳造炉を構築し銭貨の鋳造体験を行います。

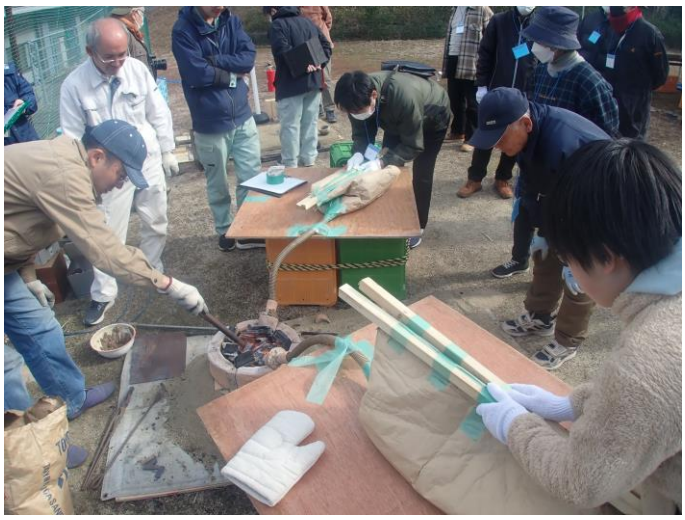


写真５　令和 6 年度に実施した手鞴式鋳造炉での鋳造体験の様子

※手鞴：手で操作して炉に風を送る送風装置

⑥ ラリーイベント

・「連携展示ラリー」

期間：7 月 19 日（土）～11月 24 日（月・祝）

概要：連携展示を行っている市内5館をめぐるラリーイベントです。

連携展示館：山口市歴史民俗資料館、鋳銭司郷土館、小郡文化資料館
山口大学埋蔵文化財資料館、山口県立山口博物館

・「鋳銭司・陶ラリー」

期間：10 月 1 日（水）～11 月 30 日（日）

概要：鋳銭司地域と陶地域の歴史文化資源をめぐるラリーイベントです。

※ラリーイベントとは、参加者が各自で、展示施設や歴時文化資源などのスポットを巡り、スタンプやキーワードを集めるイベントです。
要件を満たして応募すると、特産品などのプレゼントが当たります。

参考：令和 6 年度に実施した陶・鋳銭司キーワードラリーのフライヤー

3. 新たな銭種「貞観永宝」の発見について

(1)「貞観永宝」について

①生産時期：平安時代

貞観(じょうがん)12年(870)～寛平(かんぴょう)2年(890)

②法量：A 縦方向残存長：5.74 ㎜、横方向残存長：10.38㎜、厚さ0.92mm

B 縦方向残存長：11.80㎜、横方向残存長：18.85㎜、厚さ 1.03mm

C 縦方向残存長：6.64 ㎜、横方向残存長：10.83 ㎜、厚さ 1.26mm

D 縦方向残存長：19.90㎜、横方向残存長：19.91㎜、厚さ 1.54mm

※A～Dは、図3 貞観永宝の写真・X線CT画像のA～Dに対応しています。

③発見の経過

平成30年度　第4次調査において木組井戸(図6参照)に堆積した土を採取

令和6年8月～11月　水洗選別作業により不明金属片31点を採取

令和6年12月～2月　X 線撮影・X線CT撮影

令和7年3月　古代の銭貨生産及び貨幣史の専門家による調査

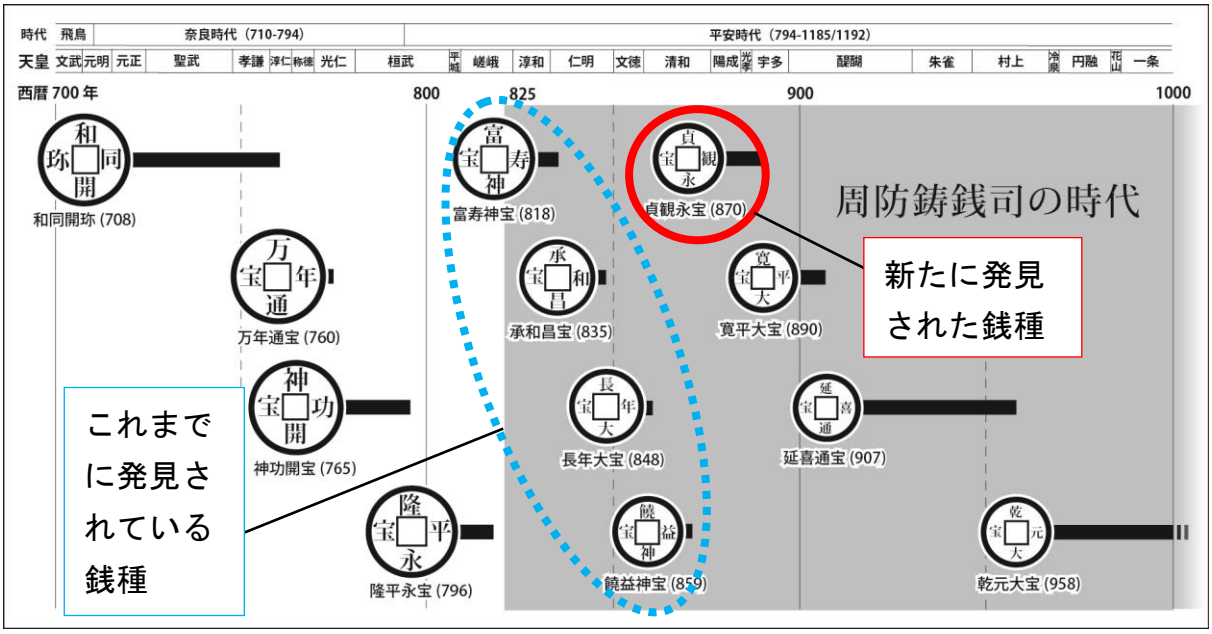


図２　皇朝十二銭の変遷（山口大学作成図に加筆）

（2）古代の銭貨生産及び貨幣史の専門家による調査所見（令和7年3月）

「今まで確認されていなかったこれまでで一番新しい銭種「貞観永宝」が見つかった。鋳損じた資料があることから、史跡地内で貞観永宝を作っていることに間違いない。」

【調査メンバー（50 音順）】

櫻木 晋一 氏（朝日大学教授、貨幣史）
高橋 照彦 氏（大阪大学教授、日本考古学）
永井 久美男 氏（兵庫埋蔵銭調査会代表、貨幣史）
松村 恵司 氏（前奈良文化財研究所所長、貨幣史）

（3）発見の意義

「貞観永宝」の鋳損じ銭が、遺跡から出土したのは日本初のことです。今回の新たな銭種の確認により、「富寿神宝」、「承和昌宝」、「長年大宝」、「饒益神宝」の5種の銭貨が生産されていたことが考古学的に裏付けられました。

文献史料「日本三代実録」・「日本紀略」からは、貞観永宝が貞観12年（870）から寛平2年（890）までの間に生産されたこと、周防鋳銭司が天長2年（825）に設置されたことがわかっています。今回の発見で、史跡指定地のほぼ同一地点において、天長2年（825）から寛平2年（890）までの最長で65年間に銭貨生産が行われていたことを考古資料で明らかにすることができました。

（4）「貞観永宝」の特別公開

期間 6月3日（火）～11月24日（月・祝）
場所 鋳銭司郷土館（鋳銭司11422番地） 第二展示室
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）
観覧料 110円（18歳以下、70歳以上の方、障がいのある方及び同行の介助者は無料）

（5）古代の銭貨生産及び貨幣史の専門家のコメント

〇松村 恵司 氏（前奈良文化財研究所所長、貨幣史）

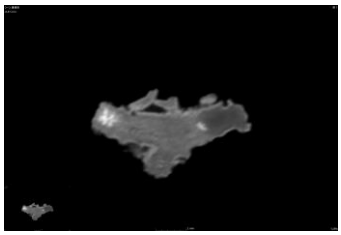
「今回の発見により、周防鋳銭司設置後に連続して生産された5種類の銭貨を確認できたことになる。「常の鋳銭司」とよばれた周防鋳銭司の実像が、開設後1200年を経て解明されつつあることの歴史的・学術的意義は大きく、今後のさらなる調査の進展と研究の深化が期待される。」

下記について希望があれば、会見終了後、文化財保護課職員にお声がけください。

①「貞観永宝」の発見について専門家への取材
※取材は本日16時までにお願いします。

②本資料の写真及び図の提供
※「参考」を除きます。

A　貞観永宝 表面（拡大約 200%）



A　Ｘ線ＣＴ画像（拡大約 200%）

B　貞観永宝 表面（拡大約 150%）

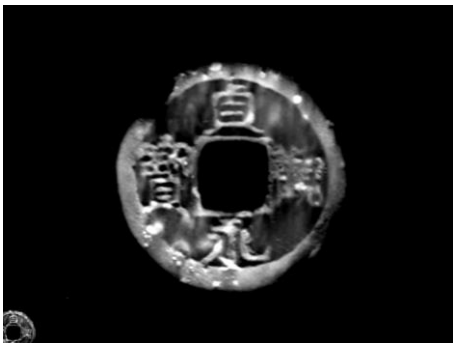
B　Ｘ線ＣＴ画像（拡大約 150%）

※Ａ・Ｂは鋳損じ銭

C　貞観永宝 表面（拡大約 200%）

C　Ｘ線ＣＴ画像（拡大約 200%）

D　貞観永宝 表面（拡大約 150%）



D　Ｘ線ＣＴ画像（拡大約 150%）

Ｘ線ＣＴ画像は元興寺文化財研究所提供

図３　貞観永宝の写真・Ｘ線ＣＴ画像

図４　史跡周防鋳銭司跡位置図

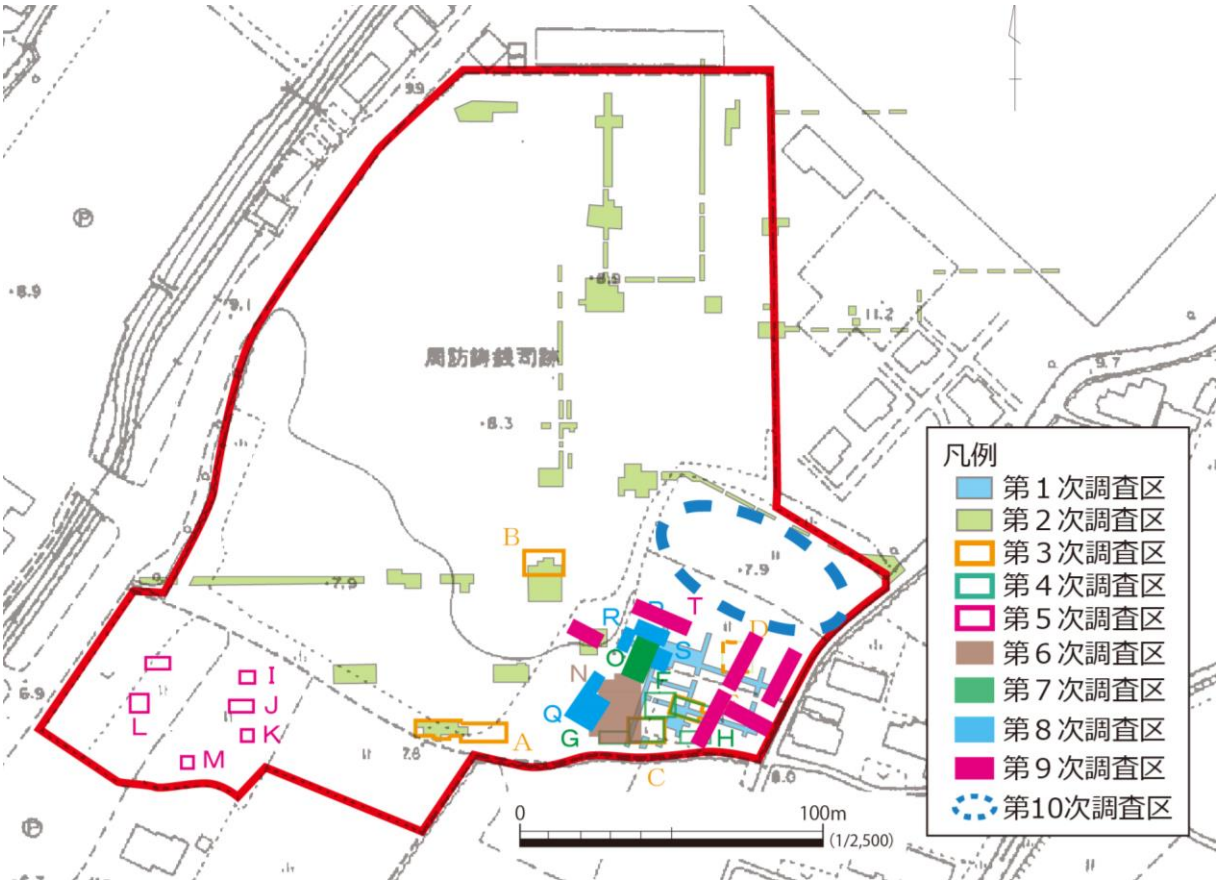


図５　史跡指定地及び発掘調査の範囲

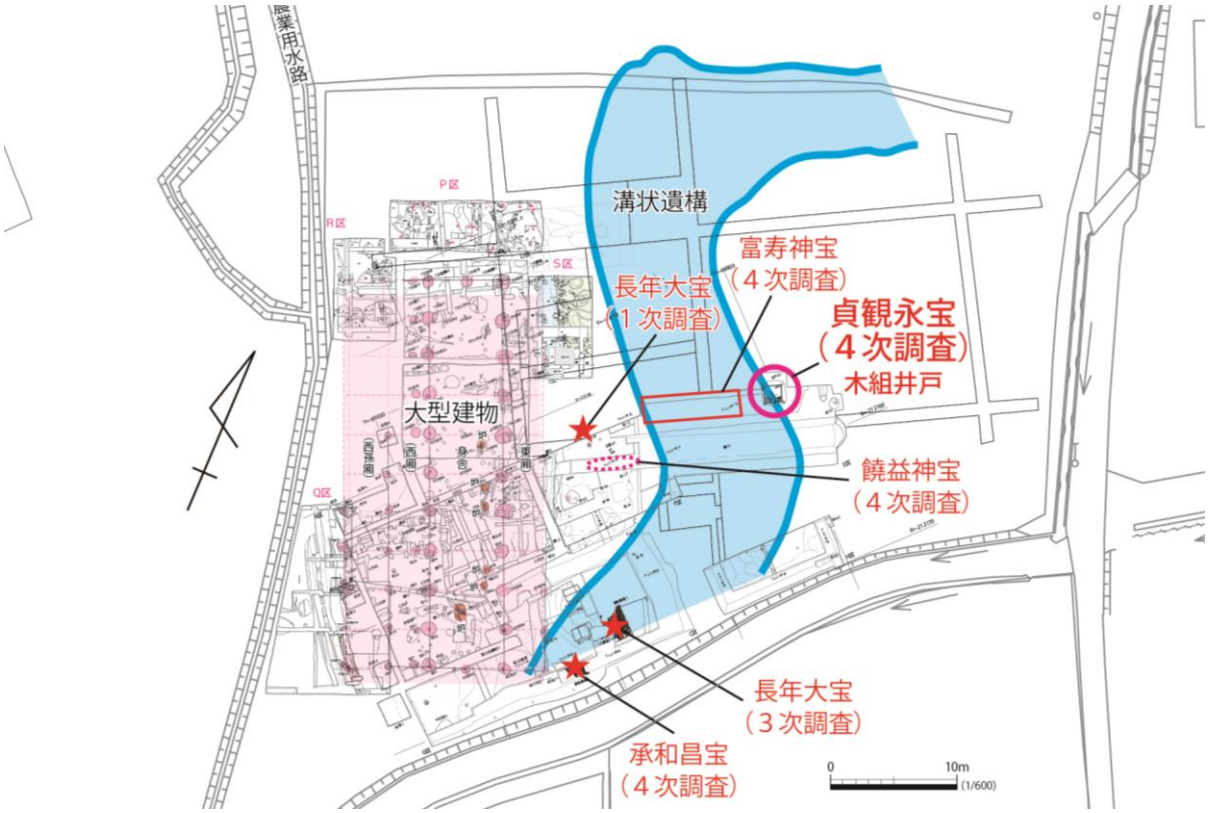


図６　貞観永宝の出土位置